



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	スタートアップセミナー		
担当教員	<a href="#">今西 一男</a>		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:H
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g1110010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	最新の専門知識及び技術		50 %
	本質を見極めるための教養と学際性		20 %
	協働的な問題探究		30 %
	社会の改善につなげる創造性		0 %
	市民としての主体的態度		0 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>1 テーマ 「まちづくり」の群像2020 - 縮減社会の「住まい方」 -</p> <p>2 授業概要とねらい この演習でのねらいは大きく二つあります。</p> <p>(1)テーマを通じて大学における学びの「作法」を身につける 大学における学びを平たく言えば、「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」といったふるまいに明確な意図を持ち、基本的な約束事を守るということになるかと思えます。テーマについて触れていくなかで、そうした学びの「作法」の基本を身につけることを第一のねらいとします。</p> <p>(2)学びの「作法」を活かしてテーマについて考える 人口減少や経済規模縮小といった社会の縮減状況が加速しています。それは地域間の不均衡の問題とも言えます。しかし、均衡ある発展に解決を求めるのではなく、現在の地域の可能性を引き出すことが求められています。そうした解決の方向について、地域での「住まい方」、あるいはそうした取り組みに関わる人に光を当てながら考えます。その際、学びの「作法」を活かして、理解を深めていくことが第二のねらいとなります。</p>		
単位認定基準	<p>この演習では二つのねらいを往復しながら、そのバランス感覚を身につけることが求められます。専門的な研究・調査への橋渡しができるよう、以下の点を考慮します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読む」...文献や資料の内容について正確に読み取るとともに、自分の見解を述べられるようにします。</li> <li>・「書く」...的確に要点を整理すること(レジュメの作成)、自分の説明を順序立てて文章にまとめること(レポートの執筆)の基本を習得します。</li> <li>・「聞く」...他者の見解を正確に聞き取るとともに、鵜呑みにせずあえて質問を発することができる建設的な反応を養います。</li> <li>・「話す」...プレゼンテーションの基本も活かし、自分の見解をわかりやすく述べるとともに、他者の問いに的確に回答する姿勢を重視します。</li> <li>・「調べる」...以上の「読む」「書く」「聞く」「話す」に結実するよう、問題設定から公表に向けた社会調査の基本的なとり組み方に触れます。</li> <li>・テーマに対する理解...演習のテーマに対して積極的な関心を持ち、情報を自ら集め、総合して考えていくようにします。</li> </ul>		
授業計画	<p>前期の獲得目標は具体的に以下などを考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「縮減社会の「住まい方」という内容に関する基本的な知識を身につけるために、学び方の「作法」を修得していきます。</li> <li>・「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」という「作法」の基本を、一当たり練習していきます。</li> <li>・全員またはグループでより具体的な課題を決め、「まちづくり」に関わる人の話を聞き、現場の様子を観察します。</li> <li>・後期に向けて、個人レポートの題材を探し始めます。夏季休業期間に下調べを行います。</li> </ul> <p>獲得目標をふまえた各回の内容としては下記の順番を考えています。ただし、行事などもありますので、適宜、相談しながら組み立てていきます。</p> <p>第1回 ガイダンス この演習のねらいを確認し、各自の問題関心を聞きます。</p> <p>第2回 大学の「演習」で学ぶということ</p>		

	<p>「講義」とは異なる「演習」で学ぶことの意味について、上級生の経験談も交えて考えます。</p> <p>第3回 文献や資料に接する 大学における「学び」の基本となる文献や資料とは何か、その種類や入手の仕方について学びます。インターネットとの接し方も考えます。</p> <p>第4回 的確に「読む」「書く」ということ① テーマに関して設定したテキスト(文献)を用い、要約や論点をまとめたレジュメの作成について練習します。</p> <p>第5回 的確に「読む」「書く」ということ② 作成したレジュメに関して、意見を出し合いながらよりよくするための方向を考えます。</p> <p>第6回 お互いの学びとしての「聞く」「話す」① 引き続きテキストを用い、それぞれが調べたことや考えたことを「話す」練習をします。プレゼンテーションの基本を学びましょう。</p> <p>第7回 お互いの学びとしての「聞く」「話す」② 発表内容を積極的に「聞く」姿勢が、自分だけではなく他者の学びを深めます。そうした質問の「作法」について考えます。</p> <p>第8回 文献から得たことをまとめる① テキストの全体を通じて何が論点であったのか。自分は何を学んだのか。通読して得たことを振り返るとともに、書評レポートの作成に挑戦します。</p> <p>第9回 文献から得たことをまとめる② 作成した書評レポートを持ち寄り、お互いの出来具合について評価し合います。</p> <p>第10回 テーマについて「調べる」①ガイダンス 前期から後期にかけての、特に「調べる」内容についてガイダンスと話し合いを行います。内容は大きく二つあり、一つは全員またはグループでより具体的な課題を決めてのフィールドワークです。もう一つは後期の課題となる個人レポートの執筆です。</p> <p>第11回 テーマについて「調べる」②企画立案 全員またはグループでより具体的な課題を決め、「調べる」企画を立案します。「調べる」ための手順を考えます。</p> <p>第12回 テーマについて「調べる」③情報収集 具体的な課題について、既に発表されている文献や論文を集めたり、関連する行政情報や統計などを活用したりする方法を中心にとりくみます。</p> <p>第13回 テーマについて「調べる」④事例研究の考え方 大学における学びでは「事例研究」の場面が度々あります。事例は何でもいいのか、事例に接する時に心がけることは何か、検討します。</p> <p>第14回 テーマについて「調べる」⑤調査計画の具体化 「調べる」ことは後の「書く」「話す」ことへとつながっていきます。そのことを意識して、調査計画を立案します。</p> <p>第15回 テーマについて「調べる」⑥フィールドワークの練習 特に「まちづくり」の「調べる」では、現地の観察によって得られることが多くあります。フィールドワークの練習を行います。</p> <p>特別編 テーマについて「調べる」⑦フィールドワーク 実際にフィールドワークを行います。夏季休業期間に1日の日程で行います(日程設定に協力してください)。</p>
教材・教科書	教材は適宜、指示・配布します。教科書はみなさんの関心を聞いた上で選定します。
参考図書	さしあたり、以下などを学習の指針としてください(著者名五十音順・税別)。 ・今西一男(2008)、『住民による「まちづくり」の作法』、公人の友社、1,000円 ・大月敏雄(2017)、『町を住みこなす』、岩波書店、860円 ・田村秀(2018)、『地方都市の持続可能性』、筑摩書房、860円 ・西山敏樹他(2015)、『実地調査入門』、慶應義塾大学出版会、1,600円
参考URL	社会調査論研究室ホームページの「講義ログ」にゼミ情報を掲載します。 <a href="http://www.ipc.fukushima-u.ac.jp/~a007/index.html">http://www.ipc.fukushima-u.ac.jp/~a007/index.html</a>
授業以外の学習	毎回のゼミに臨むにあたり、予習・復習を心がけるとともに、「まちづくり」に関する社会的動向に常に関心を払うようにしてください。また、身近な地域社会での「まちづくり」のとりくみに参加してみることもお勧めします。 一連の過程では各自またはグループによって課題にとりくむことになります。主体的・積極的に参加するようにしてください。特にグループワーキングでは共同性の発揮を期待します。
成績評価の方法	単位認定基準に書いた事項を重視します。あらゆる場面に主体的・積極的に参加することが評価のポイントとなります。具体的には「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」様子をよく見るようにします。もちろん、各種課題の内容を評価します。ただし、こうした評価の方法にしばられるのではなく、参加することが楽しみになるゼミに全員でしていくことが最も大切だと思います。
成績評価の基準	おおよそ以下の基準によって評価することを考えています。 S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた(90~100点) A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた(80~89点) B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた(70~79点) C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60~69点) F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった(~59点)
オフィスアワー	特にオフィスアワーは定めません。質問等がある時には随時受け付けるようにします(事前に直接またはメール等により日程調整を心がけるようにしてください)。
授業改善・工夫	演習科目ではレポーターとしての役割だけでなく、ディスカッションの運営を担う司会としての役割も身につけるよう促すなど、学生の主体性を発揮するよう工夫しています。個人レポートについてはレポート集として、手元に残るようにしたいと思います。アウトプットを大切に、意欲を持って望めるようにします。
留意点・注意事項	「まち」を観察する機会も多くあるので、デジタルカメラを用意してください。また、データ提出や交換の場面もあるので、自宅でのパソコン環境、特にインターネット環境は必ず整備してください。
教員の実務経験の有無	福島大学で20年、それ以前に都市計画コンサルタント会社で3年、「まちづくり」の現場に携わってきました。その経験を活かした話題提供や演習運営にも心がけています。

